

畑作・野菜・花き生産情報 第3号（要約版）

令和8年6月19日
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ 小麦の刈取適期は、6月28日頃からとなる見込みです。ほ場の登熟状況を見極め適期収穫に努めよう！
- ◎ にんにくの収穫期は平年よりやや早まる見込みです。適期収穫に努め、乾燥施設の温度上昇に注意するなど、適正乾燥を行い、高品質なにんにくに仕上げよう！
- ◎ トマトや花きなどの施設栽培では、換気や遮光をこまめに行うなど、施設内の温湿度管理を徹底するとともに、病害虫の早期発見・早期防除に努めよう！
- ◎ ツキノワグマ出没警報発令中なので、農作業の際は、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めよう！

○小麦

- ・刈取適期は、6月28日頃からとなる見込みであり、穂数の少ないほ場ではこれより早まることも予想されるので、よく観察し、収穫が遅れないようにする。
- ・効率的に収穫作業を行うため、ほ場の排水対策を徹底する。

○大豆

- ・は種後の出芽は、順調である。
- ・中耕・培土は、1回目は本葉2～3枚の展開期に初生葉のつけ根まで、2回目は本葉5～6枚の展開期に第1本葉のつけ根まで土寄せする。
- ・害虫の適期防除に努めるほか、排水対策を徹底する。

○にんにく

- ・地上部及び地下部の生育は、ほ場によりバラツキが見られている。
- ・収穫期は平年よりやや早まると見込まれ、^{ばんけいぶ}盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平となる収穫適期に収穫できるよう、早めに試し掘りを行い確認する。
- ・乾燥は、適温の乾いた空気が、ムラ無く、十分量にんにくの間を通るようにする。

○ながいも

- ・1回目の追肥は、①植付後の日数、②新しいもの長さ、③つるの伸長を目安として、適期に行う。
- ・採種ほ場では、ウイルスの伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。
- ・大雨に備え、明きよを排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。また、植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

○春夏にんじん（べたがけ栽培）

- ・葉長は平年をやや上回り、根長、根重は平年並で、生育は順調である。
- ・葉の半数以上が地際部まで下がった頃に試し掘りを行い、M、L級が中心になった頃に収穫する。

○ ばれいしょ

- ・草丈は平年を大幅に下回ったものの、茎数は大幅に上回り、開花期は平年より4日早い6月1日となっており、生育は順調である。
- ・疫病の防除を徹底する。
- ・早出し栽培（マルチ栽培）では6月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。

○ ごぼう

- ・発芽は良好であったが、5月中下旬の少雨により、草丈、葉数とも平年を大幅に下回っている。
- ・除草、病虫害防除を適期に行う。

○ メロン

- ・定植期が平年より26日遅れたものの、つるの伸長は良好で、生育は順調である。
- ・こまめな温度管理で生育の促進を図る。特に交配期は最低気温15℃前後を目安に管理する。
- ・交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。また、曇雨天が続く場合はホルモン処理を併用する。

○ねぎ

- ・草丈は、5月中下旬の少雨により、平年をかなり下回っているものの、茎径はおおむね平年並で、生育は順調である。
- ・草勢の維持に努め、生育に応じて適期に培土や追肥を行う。
- ・病虫害の発生に注意し、適期に防除を行う。

○ 夏秋トマト（雨よけ栽培）

- ・初期生育は順調で、病虫害の発生は見られない。
- ・追肥及びかん水は、水分要求量が高まる午前8～9時頃に天候に応じて行う。また、高温が続く場合は、通路にもかん水する。
- ・ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。
- ・今後、アザミウマ類の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

○夏秋ギク

- ・生育は順調で、病虫害の発生は見られない。
- ・側枝（わき芽）は早めに除去する。

- ・施設栽培では、花首の伸長を抑えるため、ビーナイン顆粒水溶剤等の適期散布で品質の向上に努める。
- ・白さび病等の予防と、アザミウマ類等の早期発見・早期防除に努める。

○秋ギク

- ・10月出荷の作型は7月上旬までに定植する。
- ・定植後は、軽くかん水して活着を早め、摘心を実施する場合は、苗が活着してから行う。

○トルコギキョウ

- ・生育は順調で、病虫害の発生は見られない。
- ・発らいまでは根の張りを良くするため、乾湿の差をつけて管理する。
- ・換気や循環扇等を活用し、日中 25℃以下、夜間 15℃を目標に温度を管理する。

※農なび青森 (<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に本文を掲載しています。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

◎環境にやさしい農業に取り組んで、「みどり認定」を受けましょう。

◎農薬は適正に使用しましょう。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

◎熱中症予防運動を展開中です（6月1日～8月31日）

◎労働者への熱中症対策が義務化（罰則あり）されています。

◎ツキノワグマ出没警報発令中です（4月20日～11月30日）

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ 総括主幹 鈴木晃 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ 総括主幹 木村一哉
電話番号	(畑作) 直通 017-734-9480 内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9481 内線 5076
報道監	農林水産部 次長 相馬宏伊 内線 4967